

「また明日」と笑顔で言いたくなる学校づくり

～優しさと強さ、しなやかさとたくましさを併せもつ生徒の育成～



「自分の未来をえがく出前授業」

6月22日（木）、2年生は南砺市商工企業立地課と人づくり学び舎の方々のご協力を得て、「自分の未来をえがく出前授業」を行いました。漫画家の森みちこ氏から、キャラクターづくりのワークショップを交え、日々どのような思いをもって仕事に向き合っておられるのかを教えていただきました。貴重な学びの機会をありがとうございました。

南砺で漫画家 魅力紹介 井波中 森さんが出前授業

南砺市の「自分の未来をえがく出前授業」は22日、同市井波中で行われた。井波地域の漫画家森みちこさん(57)「京都市出身」が講師を務め、2年生45人に、都会で広い世界を見ることも大切だが、南砺でも仕事はできる」と語り、現在の漫画家活動のやりがいを伝えた。

森さんは短大卒業後、漫画家デビューし、井波彫刻師の夫との結婚を契機に活動拠点を都内から南砺市に移して27年目になると説明した。

3年前からはタブレットを駆使して創作しており、出版社の担当者との人間関係は不可欠で、あいさつなど礼儀の大切さは今も変わらない」と述べた。

森さんが担当した市広報誌に登場するキャラクター「なんとみらいちゃん」や同市出身の政治家松村謙三の漫画も紹介した。生徒はオリジナルキャラクターを描いた。

漫画のキャラクターの描き方を説明する森さん(中央)
—南砺市井波中

＜令和5年6月23日 富山新聞朝刊より＞

木遣り踊り練習会

6月23日（金）、井波木遣りの会の方を講師に招き、全校で木遣り踊り練習会を行いました。1年生は初めて踊る生徒もいましたが、木遣りの会の方のご指導の下、2・3年生と共に積極的に練習に励みました。木遣り踊りは、7月の町流しや9月の体育大会で披露する予定です。木遣りの会の皆様、ご指導ありがとうございました。

5年ぶり町流しへ稽古 井波中で木遣り踊り

7月22日に南砺市井波地域で開かれる「いなみ太子伝観光祭」の木遣り踊りの町流しに向け、同市井波中学校の全校生徒155人は23日、同校で踊りを練習した。生徒が町流しに参加するのは5年ぶり、伝統継承へ思いを新たにしたい。

町流しは2019年に台風で、20、21年は新型コロナウイルスの影響で中止した。昨年は4年ぶりに実施したが、中学生の参加は見送った。23日は踊りと唄を伝承する井波木遣りの会(高桑崇会長)の会員8人が同校を訪問。男子は采配、女子は扇子を持ち、会員の指導を受けながら振り付けや腕の角度を確かめた。初めて踊ったという板橋祐実さん(1年)は「本番まで時間がないので、練習を頑張りたい」と意気込んだ。

会員(手前)の手本を見ながら踊る生徒

＜令和5年6月24日 北日新聞朝刊より＞